

## 創世記6 創世記2章4節b～25

### 「エデンの園に置かれた人」

#### イントロ：

1. 前回の復習：ここまでに創造の7日間について学んだ。
  - (1) カオスからの創造であった。
  - (2) 神は、6日間ですべてのものを創造し、7日目に休まれた。
  - (4) 創世記1：1～2：3までが創世記全体のイントロダクション（プロローグ）。
  - (5) 創世記は、11のトルドットに分かれる。
    - ①トルドットの意味は、家系、系図、子孫、歴史など。
    - ②トルドットはタイトルであり、その内容は、その後が続く。
2. きょうのメッセージの内容
  - (1) 第1のトルドットに入る：天と地の経緯（トルドット）
  - (2) 創世記2：4～25の内容は、4つに分かれる。
    - ①人の創造
    - ②エデンの園の創造
    - ③エデン契約
    - ④女の創造
3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
  - (1) 歴史から学ばない者は、記憶喪失症の状態にある。
  - (2) 歴史を学ぶ理由は、今を豊かに生きるためである。
  - (3) 自分の物語を熟知する人は、人生に意味と方向性を見出すことができる。

人類のルーツを知ることは、今を豊かに生きるための力となる。

#### I. 人の創造（創世記2：4b～7）

1. 再記述の法則
  - (1) 人の創造は6日目に完成していた。
  - (2) 独立した2つの創造記事があるということではない。
  - (3) 聖書の中にある再記述の法則は、解釈学の重要な原則のひとつである。

2. 地にはまだ植物がなかったという記述をどう受け取ればよいのか。

- (1) 植物の創造は、3日目に終わっている。
- (2) 「地」とは全地のことではなく「エデンという限定された地域」のこと。
- (3) 「それは、神である主が地上に雨を降らせず、土地を耕す人もいなかったからである」
  - ① 雨は、ノアの洪水以降の現象。それまでは、霧が地を潤していた。
  - ② アダムが耕すようにとの命令を受けたのは、エデンの園だけ。

3. 人の創造

- (1) 「土地のちり」とは「大地の元素」のこと。
- (2) 「土地」はヘブル語で「アダマー」であり、「人」はアダムである。
- (3) 「形造り (ヤツァー)」という動詞は、「創造 (バラー)」とは異なる。
  - ① 「バラー」は、神のみができる行為であることを示す。
  - ② 「ヤツァー」は、すでにあるものを用いて人を形造られたことを示す (陶器師)。
- (4) 人の二面性
  - ① 土地のちりから作られた人は、自然界の一部である。
  - ② この要素は、人間を謙遜にさせる (創世記3:19)
  - ③ 「いのちの息」が吹き込まれたので、崇高な存在となった。「神のかたち」。
  - ④ 無価値であるという自己認識と、崇高な存在であるという自己認識のバランス。

## II. エデンの園の創造 (創世記2:8~14)

1. エデンとエデンの園

- (1) エデンとは、メソポタミア地方のどこかの地名。
- (2) そのエデンの東側に設けられた園がエデンの園。
  - ① 「設ける」という動詞は、「植える」という意味。
  - ② エデンの語源は、「水で潤っている」という意味。
  - ③ アダムは、エデンの園以外 (エデン西部?) で形作られ、エデンの園に置かれた。
- (3) この園は3つの名前で呼ばれている。
  - ① 「エデンの園」 (創世記2:15、3:23、24)
  - ② 「主の園」 (創世記13:10、イザヤ51:3)
  - ③ 「神の園」 (エゼキエル28:13、31:9)

2. いのちの木と善悪の知識の木

- (1) エデンの園の生活環境は、完璧なものだった。
- (2) そこには、外見が美しく、美味しい実を付ける木だけが生えていた。
- (3) 園の中央には、「いのちの木」が生えていた。
  - ①それを取って食べると肉体的に死ななくなる木
  - ②旧約聖書：創世記3：22、3：24、箴言3：18、11：30、13：12、15：4など
  - ③新約聖書：黙示録2：7、22：2、22：14、22：19
- (4) 園の中央には、「善悪の知識の木」も生えていた。
  - ①ユダヤ教の伝承：ぶどう、小麦、いちじく、エトログ（柑橘類の一種）
  - ②キリスト教の伝統：りんご
  - ③「善悪の知識」とは、知識の総体のことであり、体験的知識のことである。
    - \*この木から食べると「知識の総体」を得る。
    - \*それは、人が自分にとって何がよいかを決定すること、神のように振舞うこと。
    - \*この木から取って食べると、人は知識の総体を得る。
    - \*しかし、実際の行動においては、その知識によって生きることができない。

### 3. 4つの川

- (1) エデンから一つの川が流れ出ていた。
- (2) その川は園を潤し、それから4つの川に枝分かれしていた。
- (3) 第3の川ヒデケル（ティグリス）
- (4) 第4の川ユーフラテス
- (5) 他の2つの川は分からなくなっている。ノアの洪水で地形が激変したのであろう。

## Ⅲ. エデン契約（創世記2：15～17）

### 1. エデン契約の前半（7つの条項の中の4つの条項。創世記1：28～30）

- (1) 地に広がれという命令
- (2) 地を管理せよという命令
- (3) 生物界を管理せよという命令
- (4) 食物が与えられるという約束

### 2. エデン契約の後半（残りの3つの条項）

- (5) エデンの園を耕し、守ること。
  - ①「置き」という動詞はノアという名前と同じ語源。留まる、休むといった意味。
    - \*カナンの地はイスラエルの民にとって安息の地であった（詩篇95：11）。

\*エデンの園はアダムにとって安息の地となった。

②「耕させ(アボダー)」という言葉には、仕事、奉仕、礼拝などの意味がある。

\*労働は、アダムの墮落の以前からあったもの。

\*本来労働とは、神への奉仕であり礼拝である。

\*それは苦しいものではなく、喜びをもたらすもの。

(6) どの木からでも思いのまま食べてよい。善悪の知識の木から取って食べてはならない。

①人は、創造されたままの聖なる状態にあったが、それが定着していたわけではない。

②人は、罪を犯す能力も、犯さない能力も、併せ持っていた。

③この木は、人が神の権威を認めるか、神の命令に忠実であるかどうかを試すもの。

④この命令は、時限立法であり、人がそのテストに合格したなら、取り去られるもの。

⑤合格すれば、人は罪を犯すことが出来ない状態、聖なる性質が確定した状態になる。

⑥これは、サタンと天使たちに起こったこと。

\*サタンの反逆に加担した3分の1の天使たちは墮天使となった。

\*残りの3分の2は、聖なる天使であることが確定した。

(7) 善悪の知識の木から取って食べるその時、人は必ず死ぬ。

①これは、霊的な死のこと、神との断絶のことである。

②神の命令に違反した瞬間に霊的死が人を襲った。

③しかし、肉体的な死は徐々にやって来た。

#### IV. 女の創造(創世記2:18~25)

##### 1. 「人が、ひとりであるのは良くない」(18節)

(1) この節に来て初めて「良くない」という言葉が出てくる。

(2) 「悪い」という意味ではなく、「未完成である」、「満たされていない」という意味。

①魚のいない海や、動物のいない陸地は未完成。

②助け手のいない男も未完成。

##### 2. 「助け手(エゼル)」

(1) この語は、決して否定的なものでも、価値の低いものでもない。

①神ご自身を指すものとしても用いられている(出18:4。エリエゼルという名)。

②墮落以前の男女関係には、支配関係や上下関係はなかった。

(2) 実際に助け手を造る前に、神は不思議なことをしている。

①野の獣と空の鳥が、人のところに連れて来られた。家畜はすでに人とともにいた。

②人はそれらの生き物に名をつけた。

- \*人が動物界の上に権威を持っていることを表している。
- \*人は造られた瞬間から言葉を持っていた。
- ③すべての生き物に名前を付け終わった時に、孤独を味わった。
  - \*ふさわしい助け手が見あたらなかった。
  - \*以上のことが、なぜ助け手を造らねばならなかったかの説明になっている。
- (3) 女（助け手）は、人のあばら骨から造られた。
  - ①「あばら骨（ツェラー）」とは、脇腹のこと。
  - ②神は、人の脇腹のどこかから骨と肉とを取り、そこを肉でふさがれた。
  - ③人から取ったものをひとりの女に作り上げ、その女を人のところに連れて来られた。
  - ④人は女を見て、「これこそ、今や、私の骨からの骨、私の肉からの肉」と言った。
    - \*これは、人が女に対して語った契約の言葉
    - \*Ⅱサムエル5：1で、北の10部族がダビデに対してこの言葉を語っている。
  - ⑤「これを女と名づけよう。これは男から取られたのだから」
    - \*ヘブル語の言葉遊び。
    - \*「これをイシャー（女）と名づけよう。これはイシュ（男）から取られたのだから」
    - \*バベルの塔以前の言語は、ヘブル語であった。
  - ⑥人と女の間には結ばれた契約
    - \*「男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである」
    - \*「その父母を離れ」とは、精神的な独立のこと。
    - \*「一体となる」とは糊でくっつけられたような状態、互いに契約を守り続ける状態。
  - ⑦「人とその妻は、ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいと思わなかった」
    - \*神に対しても、お互いに対しても、隠したり、恥じたりする必要のない状態。
    - \*墮落以前の世界には、理想的な男女関係があった。

## 結論

1. 人類のルーツはここにある。
2. エデン契約の重要性
  - (1) 人の聖さを確定するための契約。
  - (2) 罪の本質は、神から自立して、自分が神になること。
  - (3) ユダヤ教では原罪を教えない。
    - ①神の命令に違反した瞬間、アダムは「死を免れない」存在となったと教える。
  - (4) 聖書は、アダムの原罪がその子孫たちに遺伝的に継承されたと教える。
  - (5) 原罪の問題を解決するのが、最後のアダム（Ⅰコリント 15：45）であるキリスト。
  - (6) 今、キリストにつながり、霊的命を受けようではないか。